

平成27年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立清流小学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成27年4月21日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 小学校第6学年 9名

教科に関する調査 国語、算数、理科

- 主として知識に関する問題(A)
- 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 児童質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等
- 学校質問紙調査 ----- 指導方法に関する取組や人的・物的な
教育条件の整備の状況等

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

- 漢字を正しく読むことは良好である。
- 説明の文章の書き方の工夫や登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することは、概ねできている。

(1) 国語A (知識)

- ◇漢字(招く・信念)を読むのは、すべての児童ができている。[A¹一(1)・A¹一(2) 100%]
- ◇漢字(鳥のすを観察する)を書くのは、ほぼすべての児童ができている。[A¹二(2) 88.9%]
- ◇説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択するは、すべての児童ができている。[A⁴ 100%]
- ◆漢字(シャワーをあびる)を書くのは、誤答が多く漢字を書くのに課題がある。[A¹二(1) 33.3%]
- ◆引用している言葉を書き抜く設問の正答率が低く課題がある。[A⁵二 22.2%]

(2) 国語B (活用)

- ◇目的に応じ、中心となる語や文を捉えることは、多くの児童ができている。[B²一(イ) 88.9%]
- ◇登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することは、多くの児童ができている。[B³二 77.8%]
- ◆新聞の特徴や見出し、割り付け等の意図や効果の理解に課題がある。[B¹二 55.5%]
- ◆目的や意図に応じ、情報や語句を取り出し条件を満たしながら解答することに課題がある。[B¹三 55.5%]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	国語 (A)	国語 (B)
話すこと・聞くこと	66.7	—
書くこと	100	68.5
読むこと	55.6	74.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.8	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

算 数

- 数量関係の知識・理解及び技能において確実性が高い。
- 図形の性質や特徴を概ね理解している。

(1) 算数A (知識)

- ◇単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことは、すべての児童ができてい
る。[A1] (2) 100%
- ◇除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることは、すべての児童ができてい
る。[A2] (4) 100%
- ◇180° よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることは、
すべての児童ができてい。[A4] (1) 100%
- ◆示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択することに、課題
がある。[A5] (1) 44.4%

(2) 算数B (活用)

- ◇平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理
解することは、すべての児童ができてい。[B1] (1) 100%
- ◇正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、アの角が30° になる理由を記述
することは、ほぼできてい。[B3] (2) 88.8%
- ◆概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めれば
よい理由を記述することに課題がある。[B4] (3) 22.2%
- ◆長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる
理由を記述することに課題がある。[B5] (2) 0%

学習指導要領の領域等	平均正答率 (%)	
	算数 (A)	算数 (B)
数と計算	85.7	50.0
量と測定	85.2	37.0
図形	77.8	57.1
数量関係	94.4	51.9

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

理 科

- 振り子の法則や電磁石の働きの理解度が高い。
- メダカの雌雄を見分ける方法を理解している。

(1) 理科A (知識)

- ◇メダカのめすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶのはすべての児童ができている。[2] (1) 100%
- ◇水が水蒸気になる現象について、その名称を書くのはすべての児童ができている。[4] (5) 100%
- ◇示された器具(メスシリンダー)の名称を書くのはほぼすべての児童ができている。[3] (4) 88.9%
- ◆示された器具(顕微鏡)の名称を書くことに課題がある。[2] (3) 33.3%
- ◆メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶことに課題がある。[3] (5) 44.4%

(2) 理科B (活用)

- ◇振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選ぶのはすべての児童ができている。[1] (1) 100%
- ◇電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶのはすべての児童ができている。[1] (5) 100%
- ◇地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶのはすべての児童ができている。[4] (6) 100%
- ◆水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶことに課題がある。[3] (3) 44.4%

		平均正答率 (%)
学習指導要領の区分・内容		理科
A区分	物 質	57.1
	エネルギー	83.3
B区分	生 命	63.0
	地 球	71.4

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語は全国や県よりも小さい。算数は全国よりもやや大きく県よりもやや小さい。理科は全国や県より大きい。

	国語	算数	理科
学校	44.4	66.7	100
県	59.2	66.9	82.6
全国	61.1	66.6	83.5

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う児童の割合は、国語・算数・理科ともに全国や県を上回っている。

	国語	算数	理科
学校	88.9	88.9	100
県	82.8	82.7	88.1
全国	82.0	81.0	87.9

(3) 授業時間以外に全く勉強しない児童の割合は、平日では0である。その上、1時間以上勉強をしている割合は、学校77.7、県61.6、国62.7であることから、学習時間の長い児童が多い。また、休日に全く勉強をしない児童の割合は、全国や県に比べ小さい。

	平日	休日
学校	0.0	11.1
県	3.6	15.0
全国	3.0	10.2

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」児童の割合は、全国・県より大きい。

学校	77.7
県	55.9
全国	61.2

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した児童の割合は全国・県を上回っている。

学校	66.7
県	54.0
全国	53.2

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた児童の割合は、全国や県を上回っており、地域への関わっていかうとする意識が大きい。

学校	77.8
県	63.1
全国	66.9

(7) 「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意ですか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は全国・県を上回っている。

学校	88.9
県	52.8
全国	51.2

(8) 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」について、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童の割合は全国・県を上回っている。

学校	88.9
県	57.5
全国	62.8

(9) 「人に役に立つ人間になりたいと思いますか。」について、全児童が「当てはまる」と回答し全国・県を上回っている。

学校	100
県	72.4
全国	71.6

(10) 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。」について全児童が「当てはまる」か「どちらかといえば、あてはまる」と回答し全国・県を上回っている。

学校	100
県	86.1
全国	86.1

4 調査結果を踏まえた改善方策

①国語科での改善策

- ・漢字は既習のものを反復して練習に取り組む。また、既習の漢字は日頃から意識して使うようにさせる。
- ・読書活動をすすめ、行動、会話、情景等の描写から登場人物の心情等を読み取る力をつけていく。
- ・図表やグラフ、写真や新聞記事等から読み取れることや伝えたいこと等について考えたり、自分の考えをまとめたりする活動をより多く取り入れる。
- ・時間・字数、使用する語句など条件を指示して文章を書く機会を多くする。

②算数科での改善策

- ・答えの根拠とか理由等を説明する活動をさらに取り入れる。
- ・計算をした後に答えを確かめる活動を習慣づける。
- ・複数の情報が出てくる問題になれさせる機会を多くする。
- ・数量の関係を把握するために関係図を使いこなせるようにしていく。
- ・四捨五入する際に何の位までの概数にするかを意識させるとともに目的に応じて概数を使う経験をさせる。

③理科での改善策

- ・実験を実施するにあたっては、目的や意味だけでなく、使用器具本体や部分の名称など、基本について定着させる。
- ・実生活の経験と理科の知識とを結びつける機会を増やす。
- ・グラフや表、数字から読み取ったことに基づいて法則性を見つけ、考察を深める体験を増やす。